

令和六年度入学試験問題（前期日程）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配布するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問
題
文

非公開

非公開

非公開

〔藤田省三『精神的考察―いくつかの断面に即して―』平凡社選書七十二、平凡社、一九八二年、二七八～二八五ページ〕、

抜粋・一部改変

問一 傍線部について、どのようなことを表しているのか、筆者の論旨に沿って六〇〇字以内で説明してください。

問二 「周囲との関係の再形成」をするにあたって、「中断」と「引用」と「挿入」の関連性について、自身はどう考えるのかを具体例を挙げつつ六〇〇字以内で述べてください。

令和六年度入学試験問題（前期日程）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄、日本、中国大陆、台湾、朝鮮半島などのアジア文化圏における言語、文学、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持ち、地域による文化の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人を求めている。従って、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探求心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、現代の「理性なき合理化」や「更められた新しさ」が周囲との関係の断絶のもとに生まれていること、またそれによって、現代の「想像力」が極めて限られたもの（システム化）でしかない現状を指摘している。その上で、そうではない「相互的な周囲との関係の再構成」にもとづき、「対立を含む和解」を容認する社会体制に向かうべきであると主張している。本出題の意図として、まずは「物体」を例に出し、それが「想像力の対象ではない」ということがどういうことか、筆者の論理を読み取って理解できているかどうか、そしてそれが「想像力」にどのような影響があるかを問う。さらに、そうではない在り方として、「対立を含む抵抗」社会を築くための「周囲との関係の再形成」について、「中断」「引用」「挿入」というキーワードを通して、どのように考えているのかを問うものである。それを通して、文化とはどのようなものかを考えるうえでの感受性・共感能力・理解力についての論述をしてもらい、受験生の理解力および独自の発展的な思考力や論理構成能力、言語表現などをみることにあたる。